

第3回“かさまつ いいね”写真展の写真を募集しています

道徳のまち笠松では、笠松町内で撮影した心に響く写真や、心あたたまる写真を12月15日まで募集しています。第2回目の写真展から、次の2つのことを大きく変更し、少しでも応募しやすいように工夫しています。

- ①写真は、4つ切り以下ならサイズは自由です。
②笠松町内で撮影した写真なら、撮影時期は問いません。つまり昔の写真でも応募できます。
昨年応募された87点の中から2点紹介します。
- 【問 合 先】** 中央公民館



作品1 タイトル「大運動会」

コメント「昭和20年代の笠松中学校の運動会です。楽しかった記憶がよみがえってきます。」



作品2 タイトル「もうすぐスタート。いってきます。」

コメント「初めてのEポート大会。少し緊張するけれど、みんなと力を合わせてがんばります。」

かきまつの民話「替むかし」

う
ど
ん
の
日
④

「今日はうどんの日やな」

父と母が話しているのを聞いたのは、それから十日ほどたつてからのことであつた。梅雨もあがり、空も晴れて、いい日だつた。

麦を刈り取つたあとの田を
備中ぐで耕やし、水をいれ
て田植えをする。そういう仕
事が六月に集まつている。ね
この手もかりたいほどの忙し
い毎日であつた。

うどんの日はちょうどこの
 忙しい仕事そが しごとが終ったころやっ
 てくる。田んぼや畑はたけで働はたらき
 つかれた人たちにとって、骨
 やすめの時でもあった。



大人たちでさえ、うどんの
日を待ちわびているわけがも
うひとつあった。今年とれた
ばかりの、新しい麦粉でこし
らえたうどんは、正月や盆に
食べる白ごはんのようなごち
そうだった。

どこの家でも、この日（七月十六日）を“うどんの日”と呼んで、うどんを食べるならわしであつた。

□ ○
.....
ゾ
□
ゾ
□
.....
○

.....
ゾ
□
ゾ
□
ゾ
.....
ゾ
□
ゾ
.....
ゾ

うまそうにうどんをすすする
音が弥一やいちの家でも聞かれた。

「今年も、もう、うどんの日か。」

と、父はひとりでごとを言った。
「また、暑^{あつ}うなるに……。…」
と、母が返事^{へんじ}をした。

弥一は、うどんをすすりながら、あしたからの川遊びのことを、楽しく思いつづけていた。

（おわり）